

【うどん調査2025年】

県民のうどん消費・前年からの変化

香川県民によるうどん消費の動向を把握するため、掲題調査を実施し、その結果をとりまとめたので、報告する。

調査結果概要

1. うどん消費

- ✓ 県民がうどん外食の都度、支払う平均額は 563.45 円と、前年度の 546.75 円から 16.70 円(+3.1%)増加した。
- ✓ 支払額の特徴では、県東部(高松地域と東讃地域)が 552.59 円に対し、県西部(中讃地域と西讃地域)は 580.38 円であった。性別では、男性 582.50 円に対して、女性 544.07 と差がみられた。
- ✓ 県民がうどんを外食する年間平均回数は 49.51 回と、前年度の 49.60 回からほぼ横ばいとなった。
- ✓ 回数の特徴をみると、年代別では、20 代が 56.84 回と最も多く、次いで 60 代が 51.82 回であった。性別では、男性 61.27 回に対し、女性 37.55 回と明らかな差がみられた。
- ✓ 県民の今年の年間消費額(2025 年)は、27,418 円となり、前年度の 27,564 円から 146 円の減少となった。

2. 「かけうどん」の許容値段

- ✓ 値上げが続いている「かけうどん」で、県民の受け入れられる値段(許容値段)は、「250 円以上 500 円未満」が 73.7%で最も多かった。
- ✓ 県民全体の平均値段は 345 円となって、前年度の 332 円から 13 円増加(+3.9%)した。
- ✓ 年代別では、20 代、30 代の若年層ほど、「500 円以上 750 円未満」の比率が高く、高い値段でも受け入れているようだ。一方、60 代は、「250 円未満」の比率が高く、平均値が 320 円と最も低く、値上げには厳しい反応を示している。また、性別では、男性 360 円に対し、女性 329 円と差がみられた。

アンケート調査概要

1. 調査期間: 2025年8月28日～9月2日
2. 調査対象: 香川県内在住の20～69歳の男女
3. 調査方法: インターネット調査(調査会社のモニターによる回答)
4. 有効回答数: 476人(世帯として回答)
5. 回答者の構成と属性: 次の図表のとおり

■年代・性別	人数	男女・%	
		男・%	女・%
20代(20-29歳)	64	3%	10%
30代(30-39歳)	104	12%	10%
40代(40-49歳)	106	12%	10%
50代(50-59歳)	103	12%	10%
60代(60-69歳)	99	11%	10%
合 計	476	50%	50%

■地域別	人数	%
県東部(高松+東讃)	290	61%
県西部(中讃+西讃)	186	39%
合 計	476	100%

■回数頻度別	人数	%
週1回以上(岩盤支持層)	193	41%
月1回以上(ミドル層)	195	41%
月1回未満(ライト層)	88	18%
合 計	476	100%

注) 四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない場合がある。以降、本文中の図表も同様
なお、本文中では「20-29歳」を20代、「30-39歳」を30代、「40-49歳」を40代、「50-59歳」を50代、「60-69歳」を60代として表記している。
また、地域別では、県内4地域のデータ数の偏りを平準化して、地域の特徴を把握するため、2地域に組み換えた。

1. うどん外食による消費支出

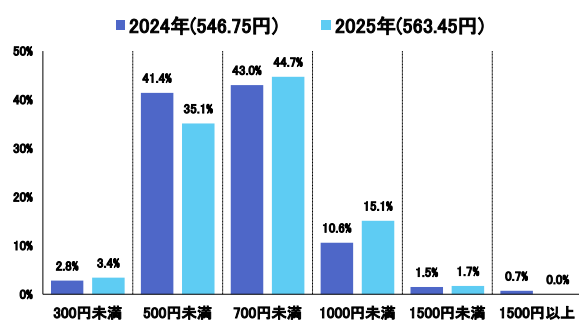
うどんの消費支出について、うどん外食で支払う金額と外食回数を推計したうえで、県民 1 人当たりの年間消費額を算出して、消費支出の動向を把握した。

(1) 支払額

県民へのアンケートで、うどん外食時にその都度、支払う金額を金額階層で尋ねた。

その結果は、「500～700 円未満(グラフ表示: 700 円未満)」の階層が 44.7%で最も多くなり、前年度よりも 1.7%増加した。次いで「300～500 円未満(同:500 円未満)」が前年より減少して 35.1%に、またより高額な「700～1000 円未満(同:1000 円未満)」が 15.1%に増加するなどの変化がみられた(グラフ 1-1)。

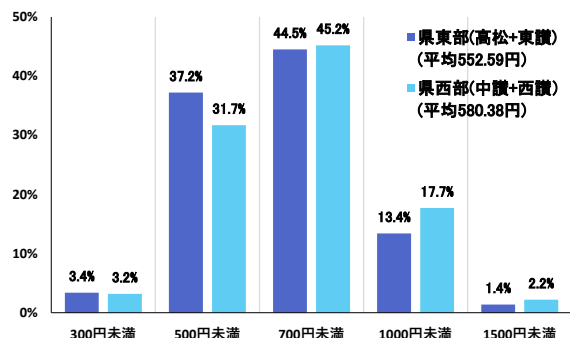
グラフ 1-1 支払額分布の前年度比較



その分布から支払額の平均値を推計すると、2025 年は 563.45 円となり、前年度よりも 16.70 円増加した。その要因は、原材料費等の上昇に伴う値上げにより、2024 年よりも高額階層へ分布がシフトしたためと考えられる。

支払額を地域別にみると(グラフ 1-2)、県東部(高松+東讃)は「500 円未満」が 37.2%、「700 円未

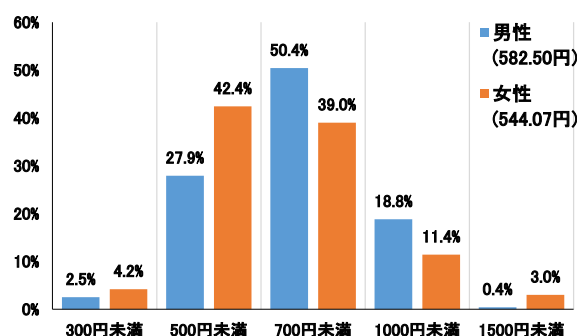
グラフ 1-2 地域別 支払額分布



満」44.5%と、この 2 階層に 8 割超が集中している。県西部(中讃+西讃)では、「700 円未満」が 45.2%で最多だが、より高額階層の「1000 円未満」17.7%、「1500 円未満」も 2.2%と高い。そのため、支払額が 580.38 円と県東部より 27.79 円多くなっている。

性別でみると(グラフ 1-3)、「300 円未満」や「500 円未満」では女性の比率が高い一方、「700 円未満」のより高額階層では概ね男性が高い傾向がみられた。その結果、支払額も女性 544.07 円に対し、男性が 582.50 円と多くなった。

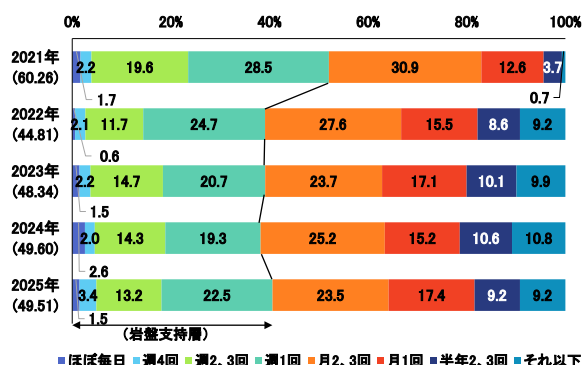
グラフ 1-3 性別 支払額分布



(2) 回数頻度

県民にうどんを外食する回数頻度を尋ねたところ、「ほぼ毎日」1.5%、「週 4 回」3.4%、「週 2、3 回」13.2%、「週 1 回」22.5%、「月に 2、3 回」23.5%、「月に 1 回」17.4%、「半年に 2、3 回」9.2%、「それ以下」は 9.2%となっている(グラフ 1-4)。

グラフ 1-4 回数分布の 5 年推移



以上から、県民がうどんを外食する年間の平均回数を推計したところ、2025 年は 49.51 回となった。前年と比較すると、2024 年 49.60 回から 0.09 回の微減となった。

2021 年から 5 年間の回数分布の推移をみると、

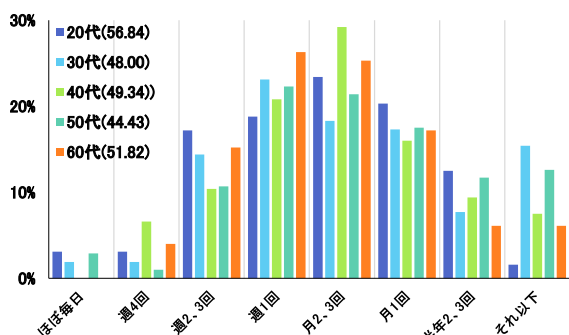
平均回数は 2021 年の 60.26 回(ピーク)から、コロナ禍中の 2022 年には 44.81 回に急減した後、2023 年 48.34 回、翌 2024 年 49.60 回と徐々に回復したが、前述のとおり 2025 年は 49.51 回に微減となった(グラフ 1-4)。

回数階層をみると、「ほぼ毎日」から「週 1 回以上」の高頻度層は 2022 年以降、その比率が低下することなく、平均して 39%を維持しており、いわばうどん外食の「岩盤支持層」となっている。

物価高で節約志向が強まっている折、平均回数が微減にとどまったのは、この岩盤支持層の存在が大きいと考えられる。

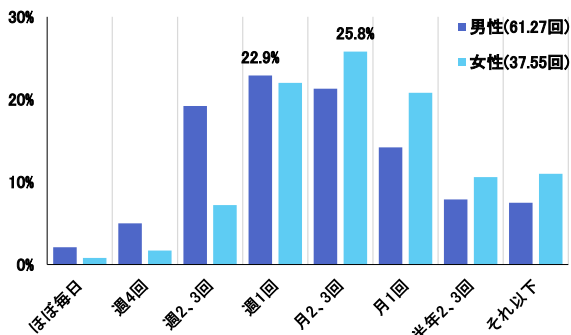
回数の特徴を年代別でみると(グラフ 1-5)、20 代が高頻度の「ほぼ毎日」～「週 1 回」まで高い比率を保持して、平均回数は 56.84 回と最も多い。60 代も「週 1 回」や「月 2、3 回」などの比率が高く、平均回数も 51.82 回と、全体平均よりも多くなっている。

グラフ 1-5 年代別 回数分布



性別でみると(グラフ 1-6)、男性は高頻度階層(「ほぼ毎日」～「週 2、3 回」)が多くなっているのに対し、女性はより低頻度階層(「月 2、3 回」～「それ以下」)が多い。その結果、平均回数は男性 61.27

グラフ 1-6 性別 回数分布



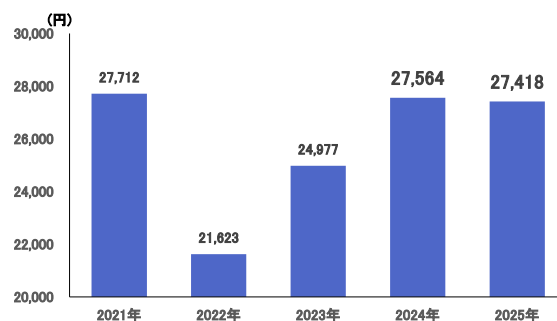
回に対して、女性 37.55 回と明らかな違いがみられた。

(3) 年間消費額

前項の支払額および回数の分布から、県民のうどん外食における年間消費額を推計すると(グラフ 1-7)、2025 年は 27,418 円となった。前年度の 27,564 円からは 146 円の減少となった。

その要因は、平均支払額が 16.7 円増加(+3.1%)したものの、平均回数が 0.09 回(▲0.2%)減少したため、結果として 146 円減少(▲0.5%)したと考えら

グラフ 1-7 年間消費額の推移



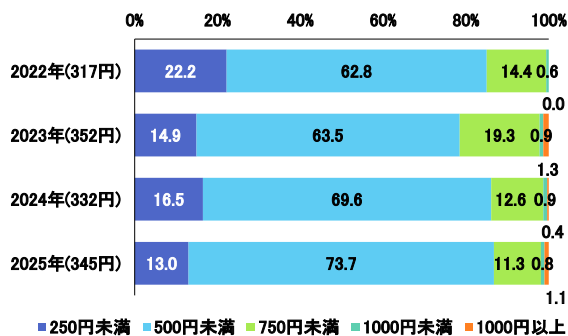
れる。

2. 「かけうどん」の許容値段

物価上昇等の影響で、うどんの値上げが続いている。県民にとって、うどんはソウルフードだが、際限なく値上げを受け入れているわけではない。そこで、当研究所では、県民が許容できる「かけうどん」の値段(許容値段)を毎年調査している。

今年の結果は、「250 円以上 500 円未満(グラフの表示:500 円未満)」が 73.7%で最も多く、次いで「250 円未満」13.0%などと続く(グラフ 2-1)。

グラフ 2-1 かけ許容値段の分布推移

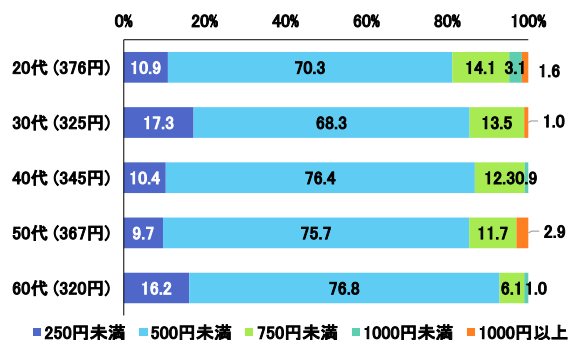


このデータから推計した許容値段の平均値は、

345 円となった。前年 2024 年の 332 円よりも 13 円、3.9%上昇している。2022 年からの分布推移をみると、「250 円未満」が 22.2%から徐々に減り、一方「500 円未満」は徐々に増加し、今年は 73.7%にまで増加している(グラフ 2-1)。

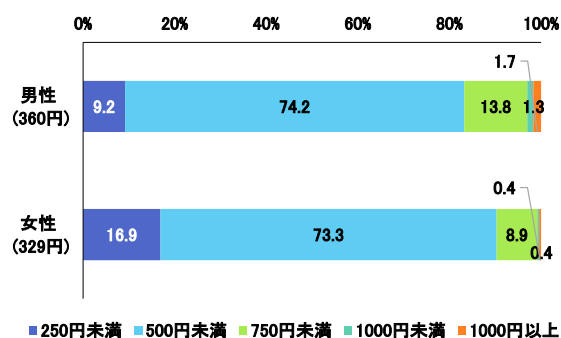
許容値段を年代別でみると、20 代で「750 円未満」の比率は 14.1%、30 代も 13.5%と高く、平均値も高い。若年層ほど高い値段でも受け入れているようだ。一方、60 代は「250 円未満」の比率が 16.2%と高く(うどんの値段が 250 円未満であってほしいと期待する人が多い)、「750 円未満」は低く、平均値が 320 円と最も低くなっており、値上げには厳しい反応を示している。

グラフ 2-2 年代別 かけ許容値段の分布



性別では、「250 円未満」の比率は女性が高く、「750 円未満」は男性が高い(グラフ 2-3)。平均値は、男性が 360 円に対し、女性は 329 円と差がみられた。男性は、女性よりも値上りをやや受け入れ易いようだ。

グラフ 2-3 性別 かけ許容値段の分布



まとめ

今回調査では、平均金額は 563.45 円と前年よりも増加したものの、平均回数は 49.51 回と若干減少した結果、年間消費額は 27,418 円と前年より

146 円減少した。

県民が許容するかけうどんの値段は、345 円と前年よりも 13 円上昇している。

今後も、県民のうどん消費の動向を調査をしていく。

以上